

あんずの里を訪ね、ピンク色に染まるラダックの春を巡る旅

ご旅行期間とご旅行代金 【旅行代金には燃油サーチャージが含まれております】
2024年 4月14日(日)発~4月24日(水)着...¥654,000 お一人部屋利用追加料金 ¥97,000



開花状況に対応し、絶好のポイントへご案内 [あんずの花の名所・アーリアン渓谷の村を訪問]

西ラダックのカルギルに連泊し、ラダックの中でも指折りのあんずの花の名所として知られるアーリアン渓谷の村々を訪問します。また下ラダックの小村・アルチにも連泊して、インダス渓谷道路に沿ったあんずの花の名所の村々もご案内します。フンザにも勝るあんずの花の景観です。村の標高差によって、同じエリアでも開花状況が変わってくるため、臨機応変に対応させていただきます。ヒマラヤ山岳地帯の遅い春が始まるころ、インド最北部・ラダックの谷には無数のあんずの花が咲き誇ります。荒涼とした渓谷を染め上げるあんずの果樹園のピンク色の花と白い雪を頂いたヒマラヤの峰々。この大自然の色彩美を楽しめるのはこの時期ならではの。

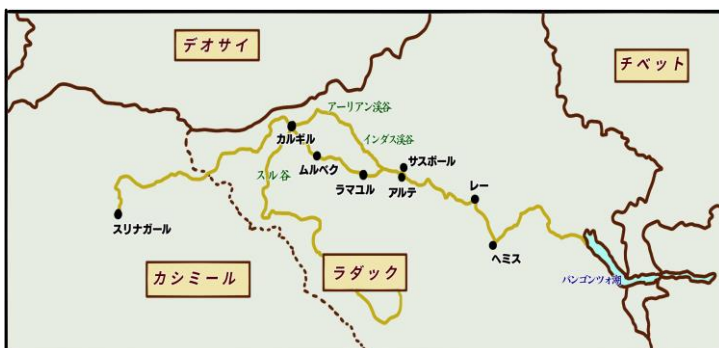


「花の民」の暮らす村を訪問

アーリアン渓谷のダー村とガルコン村では、色とりどりの花々とホズスキを頭に飾り、盛装した「花の民」と呼ばれる女性の村人たちに会えます。この「花の民」とも呼ばれているドクパ族の女性たちは、日頃から季節の花々を頭に飾り付ける習慣を持っています。ドクパ族は、最後のアリア系仏教徒民族として知られ、ダー・ハヌー地方に総人口約3000人の少数民族です。



伝統文化を保持するヒマラヤの秘境国と天空の湖へ



“東洋のヴェネチア” スリナガル

ムガル帝国のジャハーンギール帝に“予はカシミール以外に何も望まない”と言わしめたスリナガルは、インド最北部、ジャンムー・カシミール州の街で、標高が1,700m近くあるため夏でも涼しく、山間にはダル湖が美しく水を湛える「水の都」です。古の交易路としてチベットと中央アジアを繋いだこの街は、ムガル時代には皇帝の、イギリス統治時代には外国人の避暑地として栄え、その優雅な雰囲気形成されました。スリナガルの観光の目玉はなんといってもダル湖。この総面積約22kmの高原湖は「カシミールの王冠に輝く宝石」とも呼ばれ、宝塚歌劇団もこの美しくロマンチックなダル湖を舞台にした作品「ダル・レークの恋人」を過去3度に渡り上演しています。それぞれが棧橋でつながり、並んで停泊しているハウスボートは、カシミール様式の豪華な装飾が特徴的で、湖にさらなる彩を添えています。4月のダル湖では、可憐な蓮の花がシーズンです。

高所順応に配慮した日程です(高山病のご注意)

スリナガル[標高1585m]→カルギル[標高2817m]→アルチ村[標高3165m]→パンゴン・ツォ湖[標高4250m]と各地に連泊しながら徐々に高度を上げていき、より高所順応しやすい日程にしております。また、念のため、添乗員がパルスオキシメーター(血中酸素飽和度測定装置)を持参し、現地にてご参加者の健康チェックを行います。それでも高山病の影響が考えられるコースです。ご参加の方には、疾病死亡・治療、救護者費用を含む海外旅行保険へのご加入をお願いします。

お食事

ラダック料理は、チベット・インド・パキスタン料理のハイブリッドで、過去にご参加されたお客様からは、チベットよりも食べやすかったとお声をいただいております。じゃがいもやニンジンなどが入ったラダックのカレー味すいとん「スキュー」や、ナッツやドライフルーツが入ったお祝いのときの炊き込みごはん「ダシール」などをお召し上がりいただきます。ラダック・イスラム文化圏のカルギル地方にはケバブもあります。スリナガルでは、多数のカレーやマトンなどの肉料理が振る舞われる豪華なコース料理・カシミール伝統料理の代表・ワズワンもご用意しました。

ラダック アプリコットフェスティバル

例年4月13日から22日の10日間、ラダックの谷はピンク色に染まります。ラダックでは地元で「チュリ」と呼ばれる世界で最も甘い品種のあんずが栽培されています(近年になってラダック固有種であることがわかりました)。ダー・ハヌー地方などラダックのいくつかの地域では、ほとんど全ての家の庭にあんずの木があり、住民は甘い果物を収穫し、そのまま食べたり、ドライ・アプリコットやジャムに加工しています。4月のこの10日間は、“ラダック杏の花まつり”の開始期間中でもあり、あんずの花の息を呑むような景色に加えて、ジャム、シロップなど地元産のアプリコット製品も手に入ります。ラダック産のあんずは現在、ドバイに輸出され高値で売買されています。

ご旅行条件

- 募集人数/12名様限定
- 最少催行人数/8名様
- お食事/朝食9回・昼食9回・夕食8回
- インド査証料・同取得手数料/¥9,850(別途必要)
- 査証用写真/1枚要[5cm×5cm・カラー・背景:白]
- パスポートをお預かりします。(必要旅券残存期間6ヶ月)
- 成田・千歳空港利用料/¥4,650(別途必要)
- 国際観光旅客税/¥1,000(別途必要)
- 海外空港税・出国税/旅行代金に含まれております。
- 千歳空港より全行程、社員添乗員同行
- トランク往復無料託送サービス[ご自宅~空港~ご自宅]
- ビジネスクラスご希望の方はお問合せください。

ご利用ホテル

- デリー/プライドプラザ・ホテル・エアロシティ、ノボテル、ホテルグランド、タウラス・サロヴァール
- スリナガル/フォーポイント・バイ・シェラトン・スリナガル
- カルギル/バジラ・レジデンス・カルギル
- アルチ/ジムスカング・アルチ
- レー/ザ・グランド・ドラゴン・ラダック、ジ・インダス・パレー、パドマ、スピッツ&スパ

*カルギル及びアルチでは宿泊施設に限りがあり、ホテルの設備は十分ではなく、シャワーのみでお湯の出も悪かったり、暖房設備も不十分で、電気の利用制限がある場合もございます。夜の寒さ対策に、現地にて湯たんぽをご用意させていただきます。
 ※あんずの花は、その年の天候により、開花時期は多少ずれることがあります。予めご了承ください。
 ※各地のゴンパ(僧院)やモスクは観光地ではなく宗教施設ですので、現地事情により訪問できないことがあります。
 ※カルギル周辺は禁酒エリアとなりますので、ご協力お願いいたします。
 ※アルチ・ゴンパなど訪問地のいくつかは写真撮影が禁止となっております。
 ※専用車に分乗となり、お一人様2席はご用意できませんのでご了承ください
 ※アルチ・ゴンパなど訪問地のいくつかは写真撮影が禁止となっております。
 ※専用車に分乗となり、お一人様2席はご用意できませんのでご了承ください。ただし普通車の後部座席を3名利用することはございませんのでご安心ください。
 ※軍当局の指示により、一部観光が制限される場合もございます。
 ※このコースの大部分は「ハイウェイ」とは名ばかりの山岳道路を走ります。天候や道路状況等によっては一時的に通行禁止となったり、通行に予想以上の時間がかかることがあります。大幅な日程変更を余儀なくされることがありますが、その場合でも安全を第一にした上で、極力日程に従って旅行サービスが受けられるよう万全の手配努力をいたします。
 (注)羽田空港経由の日本航空利用に変更になる場合がございます。その場合、羽田/成田間はリムジンバスでご移動となります[実費:¥3,600]。

都市名	スケジュールと見どころ/お食事と宿泊地
1 千歳成田デリー	【スーツケース無料託送サービス 自宅~空港】 ■朝、千歳空港より国内線にて、成田空港へ(注)。 ■成田空港より、エアインディア直行便にて、デリーへ[11:55発/17:25着]。 ☒☒☒☒[デリー泊]
2 デリー スリナガル ダル湖 チューリップ	■午前、航空機にてビール・パンジャール山脈とヒマラヤ山脈に囲まれた、かつてのシーク教国・カシミール藩国の夏の都スリナガルへ。 ■午後、「カシミールの王冠に輝く宝石」とも呼ばれる広大なダル湖へ。昔ながらの豪華な装飾のハウスボートが浮かぶ湖を棧橋から手漕ぎの小舟「シカラ」に乗って遊覧し、シャリマル庭園とニジャット庭園を訪れます。ハウスボートでのティータイムもお取りしております。インディラ・ガンジー・メモリアル・ガーデンにて、シーズンを迎えたチューリップもご覧いただけます。 ■夕刻、見晴らしの良いハリ・バルバット要塞へ。スリナガル全域を見渡せる絶景が楽しめます。 ■お泊りは、ジュラム河に面した『フォーポイント バイ シェラトン スリナガル』です。 ☒☒☒☒[スリナガル泊(1585m)] ☒☒☒☒[スリナガル泊(1585m)]
3 スリナガル 水上マーケット	■朝、「シカラ」に乗って、ダル湖の水上マーケットを観光します。美しく咲く蓮の花がご覧いただけます。 ■その後、スリナガル市内観光です。1632年に皇帝シャー・ジャハーンによって造園されたチャシュマ・シャヒ[王家の泉]庭園は、彫刻の施された池が配置されたムガル様式の落ち着いた美しさを代表しており、ダル湖を見渡せるすばらしい景観も魅力的です。ほかに、ダル湖を見渡すパリのマホルの丘、緑が美しいダストギル神殿、白く輝くハズラットハルモスクを見学します。 ■昼食は、カシミール伝統料理ワズワンです。 ☒☒☒☒[スリナガル泊(1585m)]
4 スリナガル ソジラ峠 カルキチュ村 カルギル スル谷 あんずの花	■専用車に分乗して、“スリナガル ラダック道路”を走り、“もう一つのチベット”秘境ラダックへ入ります。グレートヒマラヤ山脈のソジラ峠[3528m]を越えて、カシミールの険しい谷に挟まれたカルギル[2817m]へ[約200km]。途中、ドラス河沿いのあんずの里・カルキチュ村に立寄りませす。 ■着後、スル谷の村にご案内し、モスクを囲い一面に広がるあんずの花をお楽しみいただけます。 ☒☒☒☒[スリナガル泊(1585m)] ☒☒☒☒[カルギル村泊(2817m)]
5 カルギル アーリアン渓谷 サンジャク村 あんずの花 カルギル	専用車に分乗して、インダス河に沿った、多くのあんずの収穫量を誇るダー・ハヌー地方へ。頭に花を飾りつけた「花の民」と呼ばれる人たちが暮らすアーリアン渓谷のダー村やガルコン村を訪問します。あんずの果樹園に囲まれた美しい村の散策や名家訪問をお楽しみください。あんずの花咲くサンジャク村にもご案内します。 ☒☒☒☒[カルギル村泊(2817m)]
6 カルギル ムルバク ラマユル村 アルチ村	■専用車に分乗し、フォチュ・ラ峠[4147m]やナミカ・ラ峠[3760m]を越えて、“スリナガル レー・ハイウェイ”を走り、インダス河沿いの小さな村・アルチへ[約160km]。 ■途中、ムルバクにて高さ15mの1300年前の摩崖仏(弥勒菩薩像)を見学します。ラマユル村の「ムーンランド(月の世界)」とラダック最古の歴史を持つ僧院ラマユル・ゴンパも観光します。 ■着後、仏教美術の宝庫で、ラダックで唯一平地に建つ僧院アルチ・ゴンパの見学(創建当時の曼荼羅の数々と仏像は圧巻です)や、家の数に負けない程のチョルテンが並ぶアルチ村の散策にご案内します。 ■夕食はラダック料理のスキューです。 ☒☒☒☒[アルチ村泊(3165m)] ☒☒☒☒[アルチ村泊(3165m)]
7 アルチ村 インダス渓谷 サスポール村 あんずの花 アルチ村	■午前、専用車に分乗し、“インダス渓谷道路”を走り、あんずの花に彩られたドゥムカル村やアチナサン村を訪れます。村々に広がるあんずの果樹園をお楽しみください。 ■午後、アルチ近郊のサスポール村にて、壮麗な曼荼羅など精緻な壁画のニダブ石窟の見学やあんずの木が立ち並ぶ村の散策をお楽しみください。 ■夕食は、ラダック料理ダシールです。 ☒☒☒☒[アルチ村泊(3165m)]
8 アルチ村 レー	■専用車に分乗し、ラダック・チベット文化圏の中心地・レーへ[約66km]。途中、ニムムのインダス河とザンスカール川の2つの渓谷の合流点で写真ストップします。 ■その後、レー周辺の観光です。色鮮やかな壁画が残るラダック最大の僧院ハミス・ゴンパ、美しい要塞ティクセ・ゴンパ、“夏の離宮”シェイ・ゴンパ、かつてのラダック王の居城・ストク王宮を巡ります[レー/ハミス往復:70km]。 ☒☒☒☒[レー泊(3505m)] ☒☒☒☒[レー泊(3505m)]
9 レー パンゴン・ツォ湖	専用車に分乗し、チャン・ラ峠[5289m]を越え、“パンゴン・レイクロード”を走り、富士山よりも高い標高4250mの“天空の湖”パンゴン・ツォ湖へ[レー/パンゴン・ツォ峠道:150km]。驚くほど美しい手つかずの自然の中、ヒマラヤの峰々を背景に真っ青に輝く宝石のような湖面は絶景です。 ☒☒☒☒[レー泊(3505m)]
10 レー デリー	■午前、レー市内観光です。レー王宮[外観]、ナムギャル・ツェモの丘を訪れます。 ■昼、航空機にて、デリーへ戻ります。昼食は、中華料理です。 ■午後、「階段井戸」アグラセー・キ・バオリ遺跡やバハイ教のロータス・テンプルを観光します。 ■夜、エアインディアにて、帰国の途へ[21:15発]。 ☒☒☒☒[機中泊]
11 成田 千歳	■午前、成田空港到着[08:45着]。入国後、国内線にて千歳へ。 ■午後、千歳空港到着後、解散。 ☒☒☒☒

※表記の時間は、すべて現地時間での表示です。
※表記の「○」はお食事の有無を示します。「▶」は機内食、「×」の食事は含まれておりません。